

製品名: FKBP12 (17C15) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe11001**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	12kDa

抗原情報

遺伝子名	FKBP1A
別名	FKBP 12; FKBP 1A; FKBP1; FKBP12 Exip3; FKBP12C; fkbp1a; Immunophilin FKBP12; PKC12; PPlase FKBP1A; Rotamase;
遺伝子 ID	2280.0
SwissProt ID	P62942
免疫原	ヒト FKBP12 の合成ペプチド

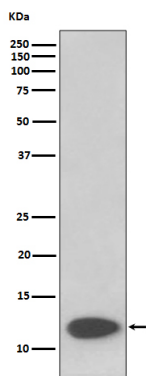
背景

骨格筋筋小胞体のカルシウム放出チャネルの構成要素であるリアノジン受容体アイソフォーム 1 (RYR-1) の調節に役割を果たす可能性があります。骨格筋 RYR1 つあたり 4 つの FKBP12 分子があります。PPlase はタンパク質の折り畳みを促進します。オリゴペプチド中のプロリンイミドペプチド結合のシス-トランス異性化を触媒します。TGF- β 型セリン/スレオニンキナーゼ受容体である TGFBR1 を不活性構造に保ち、リガンドがない場合に TGF- β 受容体が活性化されるのを防ぎます。SMAD7 を ACVR1B にリクルートすることで、SMAD2 および SMAD3 がアクチビン受容体複合体と結合するのを防ぎ、アクチビンシグナルをブロックします。RYR1 カルシウムチャネルの活性を調節する可能性があります。PPlase はタンパク質の折り畳みを促進します。オリゴペプチド中のプロリンイミドペプチド結合のシス-トランス異性化を触媒します。

研究分野

-

画像データ



SH-SY5Y 細胞溶解物中の FKBP12 発現のウェスタン プロット解析。